

桜井西町町内会では、令和4年度に「地区防災計画」を策定しました！

地区防災計画とは？

地区防災計画は、地域住民による自発的な防災活動であり、東日本大震災を契機に平成25年に創設されました。

過去の災害において避難や救命救助などに大きな役割を果たしてきた地域での助け合い、支え合いの「共助の力」を育む取り組みです。

計画策定までの流れ

町内会役員、組長、民生委員、子ども会などが地域の代表として集まり、被災地における支援活動の経験が豊富な認定NPO法人レスキューストックヤードの協力を得て、ワークショップ（話し合い）を行いました。

大規模な風水害や地震の発生が危惧されるなか、地区の特性に応じた防災上の課題について積極的な意見交換を行い、令和4年度以降に取り組む防災活動の内容を作成しました。

ワークショップ1「地区の特性の確認」

強み：地域のつながりが強く助け合いの力がある
高齢者や子どもの見守り活動がさかん

課題：矢作川の決壊で最大5mの浸水
南海トラフ地震で震度6強の揺れ



ワークショップ2「災害時の課題の抽出」

- ①安否確認・情報入手**
災害時に役立つ情報はどこから入手すれば良いの？
安否確認は、誰がどのように行うの？
- ②ライフラインの復旧や備蓄**
電気・ガス・水道が止まったら生活はどうなるの？
家庭で何をどれだけ準備しておけばよいの？
- ③避難所生活**
どんなことに困るの？
何がどれだけ備蓄されているの？






ワークショップ3・4「防災活動メニューのアイデア出しと企画書の作成」

災害時の課題に対して、みんなで、今後地区で取り組みたい防災活動のアイデアを出しました。これをもとに5つの防災活動メニューの企画書を作成しました！



桜井西町町内会でこれから取り組む防災企画

向こう3か年の間に、地域で取り組みたい防災活動をみんなで考えました。このアイデアをもとに、来年度から桜井西町町内会の防災企画を進めます！

企画のなまえ	概要
小学生を対象に非常食をつかって食べよう	小学生を対象に、家にある食材を持ち寄り炊き出しを作る ・会場には、町内会で用意した非常食の展示コーナーを設ける。 ・企画は、子ども会と自主防災会が一緒に取り組む。 
やってみたい！避難所体験	避難所までの安全な避難経路を確認する ・避難経路の勉強会を開催。実際に経路を歩き、所要時間を確認。 町内防災訓練で避難所体験をする ・会場で簡易トイレづくりや非常食の試食、床で寝る体験などを行う。
非常用トイレを使ってみよう	非常用トイレの講習会を開催する ・役員を対象に講習会を行い、その後全町民へ広める。 トピック！ 令和4年10月に、有志で非常用トイレの勉強会を行いました！ 
リアカー運送訓練	リアカー所有者と台数を調べる ・組単位で、所有状況を調査する。 実際にリアカーに乗せて避難場所へ搬送する訓練を行う ・避難行動要支援者名簿の登録者から有志を募る。 
それいけ！アンピー（安否）ちゃん	安否確認について話し合う「アンピーちゃんの集い」を開催する ・2ヶ月に一度、避難行動要支援者の支援方法について勉強する。 ・避難行動要支援者の個別リスト（必要な手伝いの内容・人数など）とマップを作成する。



どのグループでも具体的な企画書を作ることができて、**実際に取り組むのが楽しみ**



防災は人が勝手にしてくれるものではなく、**自分たちで行うもの**。そういう気持ちで具体的な行動を起こしていくよ！



ワークショップを通じて、過去の災害事例を知り、皆さんと意見交換を重ねるうちに、**自分たちが主体**でやらなくてはという意識が湧いてきました。



幅広い年代の意見を出してもらうことが大事だと分かったよ。本気で考え、実行に移せる計画になるまでもっと作り込もう！

認定NPO法人レスキューストックヤードからのメッセージ

災害時の食事やトイレの確保は、基本的なことでありながらも健康を守り、災害関連死を防ぐためにとても重要です。

特に、一人で逃げるのが難しい避難行動要支援者は、避難生活のあらゆる場面において配慮が必要となります。今回提案された企画内容の中に、ぜひ、あらゆる世代が食べやすく、アレルギーなどにも配慮した炊き出しメニューを考えたり、洋式トイレの使用を要配慮者優先にしたりするなどの工夫も取り入れ、レベルアップさせましょう。